

日本学術会議-RIETI シンポジウム

ダイバーシティ経営とワーク・ライフ・バランス

主催：日本学術会議（経済学委員会ワーク・ライフ・バランス研究分科会）、独立行政法人経済産業研究所
共催：慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター



樋口 美雄氏



武石 恵美子氏



大石 亜希子氏

- モデレーター
日本学術会議連携会員/RIETIファカルティフェロー
慶應義塾大学商学部教授 樋口 美雄氏
- パネリスト
日本学術会議連携会員
法政大学キャリアデザイン学部教授 武石 恵美子氏
- 日本学術会議連携会員
千葉大学法政経学部教授 大石 亜希子氏
- 日本学術会議連携会員
千葉大学法政経学部教授 藤澤 秀昭氏
- 経済産業省経済産業政策局
経済社会政策室長 岩田 喜美枝氏
- 21世紀職業財団会長/日本航空社外取締役
キリンホールディングス社外監査役 岩田 喜美枝氏
- リクルートワークス研究所
機関誌 Works 編集長 石原 直子氏

第1部 研究報告

働き方改革および育児短時間規制の
出生と就業への影響



永瀬 伸子氏

2012年から全企業に育児労働者の短時間勤務制が義務づけられ、就業女性の第1子出産と出産後の女性の就業継続の割合が大きく上がった。だが、第2子以降の出産には、特に就業

ダイバーシティ経営が正規雇用女性の賃金に
与える影響について



山口 一男氏

日本の男女賃金格差は大きい。私の実証分析では女性の社会進出を促すダイバーシティ経営には「性別にかかわらず社員

女性活躍推進と企業業績



山本 勲氏

女性活躍推進と企業業績の関係について企業を追跡したデータで検証すると、正社員女性の比率や管理職女性の比率が高い企業は、利益率が高くなる傾向

外資系企業の女性活用



児玉 直美氏

日本の外資系企業は、国内企業に比べて、女性が活躍している。古くからの外資系企業、外

第2部 パネルディスカッション

男女のキャリアとWLB—育児期の課題克服
個人のスタンス、企業のスタンス、社会のスタンス

働き方改革 必要

パネル討論では樋口氏が「女性の出産後の継続就業率は正規労働者では上昇傾向だが、非正規比率も高く、全体的にまだ期待されるほどには高くなっていない。労働・通勤時間が長い地域ほど出生率が低い。働き方改革は社会全体では進んでいないのが現状」と問題を提起した。

女性の多重役割と健康問題—ワーク・ファミリー・
バランスの観点から



吉沢 豊予子氏

1990年以降、日本人女性はキャリアを形成した後、結婚し子育てしようとしてきた。だが、妊産婦の低下、不妊治療などのアクセスが増え晩産化による弊害がわかってきた。201

き(武石氏)、「欧州連合(EU)の勤務間インターバルや英国の柔軟な働き方の申請権が参考になる(大石氏)」、「個人面談は必要。トップが改革の先頭にたつ企業が成功している(岩田氏)」などの意見が出た。

企画・制作=日本経済新聞社
クロスメディア営業局



独立行政法人 経済産業研究所
http://www.rieti.go.jp

RIETIは、世界有数の政策シンクタンクとして、内外から高い評価を得ています。

本内容は要点を掲載しており、詳細は、後日、RIETIホームページにて掲載する予定です。